

二チモウ株式会社

(証券コード：8091 東証一部)

2022年(令和4年)3月期 第2四半期

決算短信補足説明資料

2021年11月5日(金)

2022年(令和4年)3月期 第2四半期決算

● 日本経済

わが国の経済は、引き続き新型コロナウイルス感染症の影響が長期化するなか、感染力の強い変異株の感染拡大にともない断続的な緊急事態宣言の発令やまん延防止等重点措置の適用による行動制限が続き、個人消費や雇用情勢において弱い動きとなるなど、依然として厳しい状況下にあった。足元では本格的にワクチン接種が促進されたことにより感染者数が減少し、経済活動の制限が緩和されて徐々に景気の持ち直しが期待される一方で、制限解除による感染再拡大への懸念が払拭できないなど、今後も先行きの予測が困難な状況が続いている。

● 水産業界・食品分野

水産、水産加工・流通、食品の各分野においても、新型コロナウイルス感染症の影響により通販などの巣ごもり需要は堅調に推移したものの、オリンピックが無観客開催となったことによるインバウンド需要の消失や外食・観光業を中心とした営業自粛による需要の低迷など、総じて厳しい環境下にあった。

● ニチモウグループ

当社グループにおける新型コロナウイルス感染症の影響については、引き続き営業活動の制限により、海外からの食品原料の買付や製品の輸出入などの業務に支障をきたす事態ではあったが、役員・従業員の健康と安心を最優先に感染防止対策を徹底しながら事業を継続した。

連結損益計算書(要旨)

(単位：百万円)

	2022年3月期 第2四半期	2021年3月期 第2四半期	前期比	2022年3月期 期初計画	進捗率
売上高	52,620	53,781	▲ 1,160	110,000	47.8%
営業利益	1,365	914	+451	2,000	68.3%
経常利益	1,600	1,018	+582	2,300	69.6%
親会社株主に帰属 する当期純利益	1,184	856	+328	1,600	74.0%

連結貸借対照表(要旨)

※ () 内の数字は前年同期比増減

(単位：百万円)

資産の部

流動資産 56,302 (+4,248)

固定資産 21,732 (+2,576)

繰延資産 66 (+18)

総資産 78,102 (+6,844)

負債の部 59,290 (+4,239)

流動負債 44,304 (+3,178)

固定負債 14,985 (+1,061)

純資産の部 18,812 (+2,604)

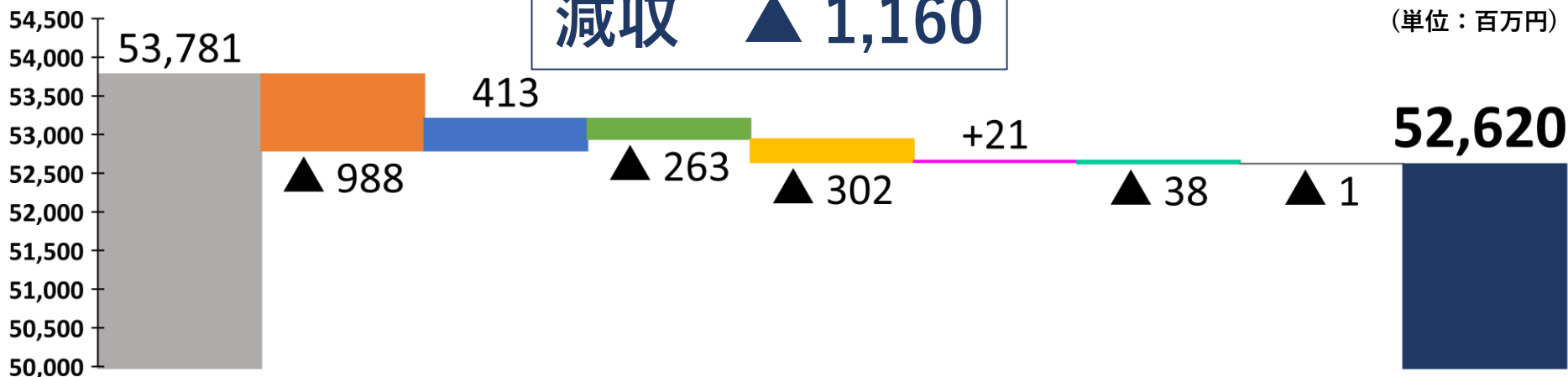
自己資本比率 23.9%(+1.3%)

事業別実績

事業別増減分析(前期比)

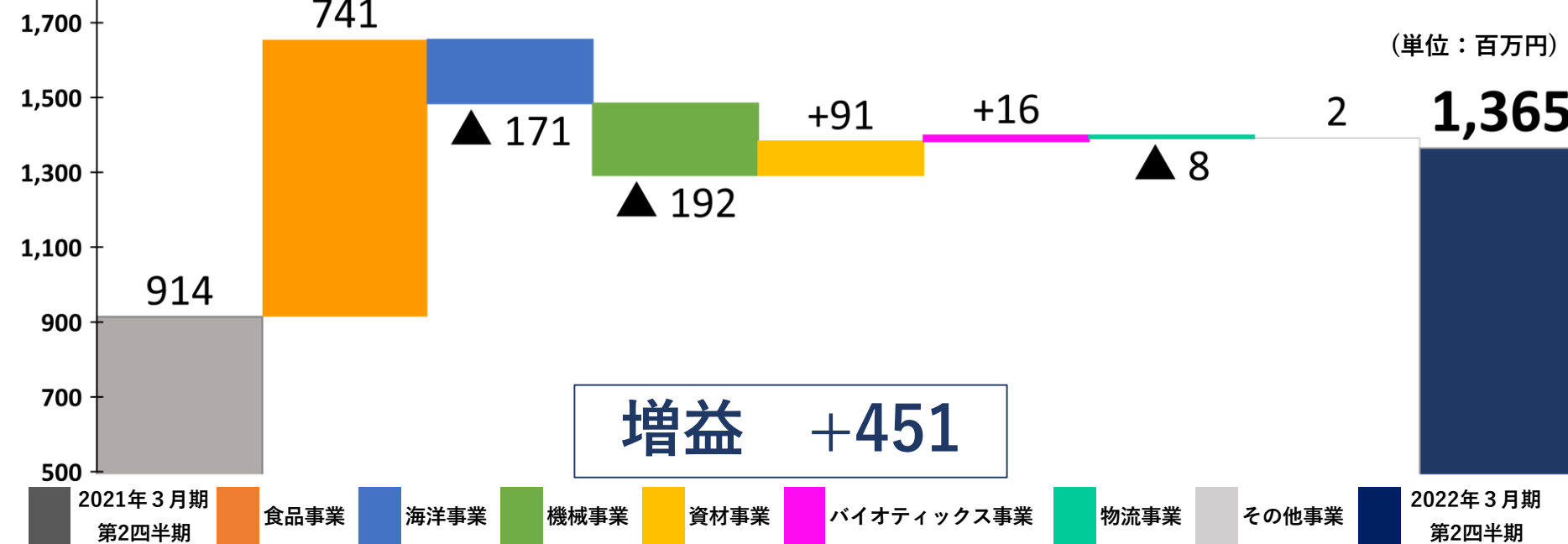
【売上高】

(単位：百万円)



【営業利益】

(単位：百万円)



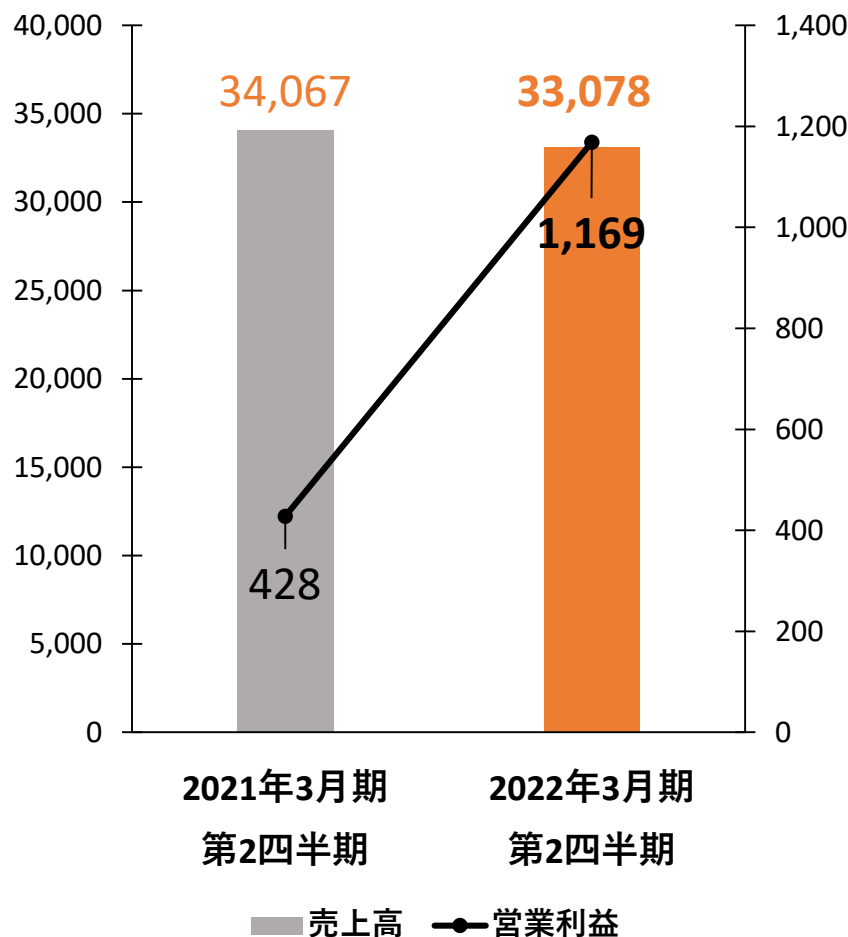
2021年3月期 第2四半期
 食品事業
 海洋事業
 機械事業
 資材事業
 バイオティックス事業
 物流事業
 その他事業
 2022年3月期 第2四半期

(2022年3月期第2四半期)

減収(▲ 988)増益(+741)

最近2年間の実績推移

(単位：百万円)



<すり身部門>

国内すり身の生産が順調となり
市況も堅調に推移

→増収増益

<鮮凍水産物部門>

【カニ】市場の動向踏まえ効率的な買付

→増収増益

【北方凍魚】海外における物流遅延

→減収減益

【助子】原料価格の高騰したものの
巣ごもり需要による供給量増加

→減収増益

<加工食品部門>

養殖銀ザケ、煮魚、焼き魚および
寿司種において概ね計画通りに推移

→減収増益

※収益認識に関する会計基準の適用

水産物を加工販売する当事業が大きく影響

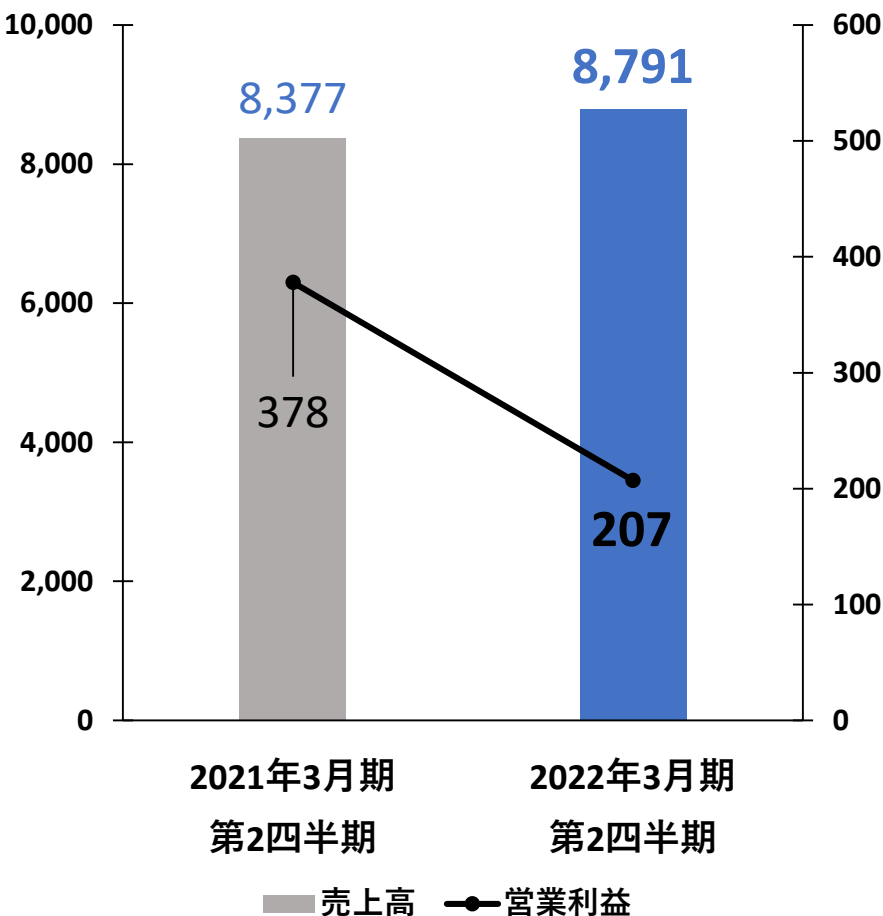
→減収

(2022年3月期第2四半期)

増収(+413)減益(▲ 171)

最近2年間の実績推移

(単位：百万円)



< 漁網・漁具資材部門 >

- ・ 官公庁向け漁具資材や海外まき網漁具資材などの販売が堅調に推移
- ・ 依然として続く北海道沿岸における水揚げ不振による資材購買意欲減退

➔ 減収減益

< 船舶・機械部門 >

- ・ 船体一括案件の受注、船舶用機器類の販売が伸び悩む
- ・ 船用品の販売増

➔ 前年同期並

< 養殖部門 >

- ・ 成魚や養殖用資材の販売が回復
- ・ 配合飼料などの販売も堅調に推移

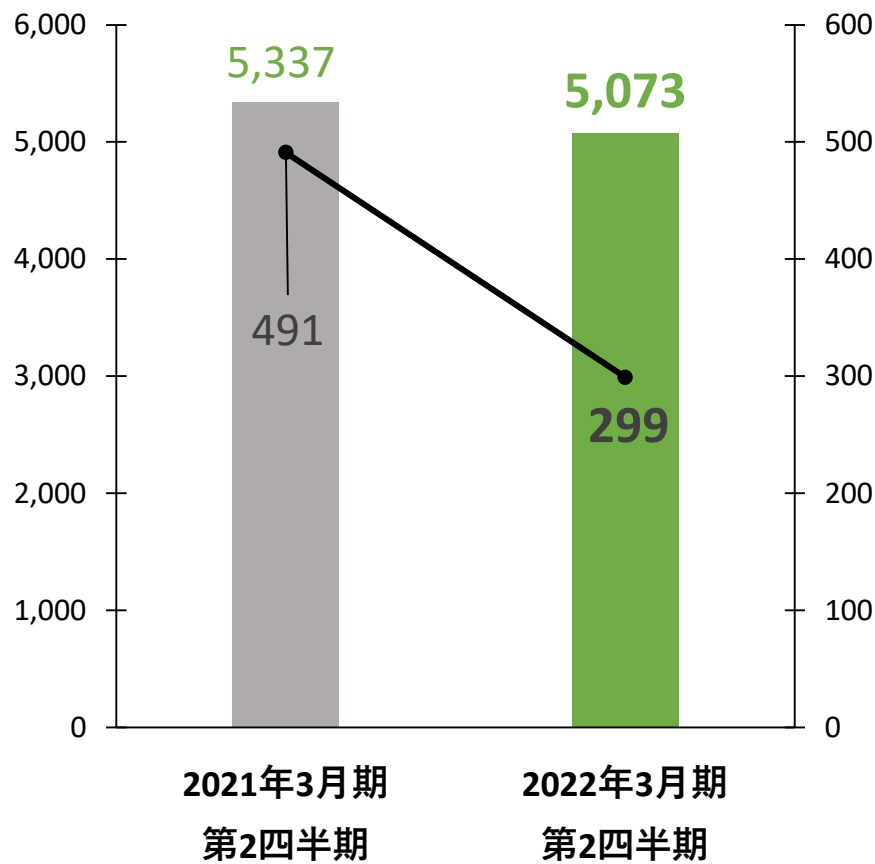
➔ 増収増益

(2022年3月期第2四半期)

減収(▲ 263)減益(▲ 192)

最近2年間の実績推移

(単位：百万円)



■ 売上高 ● 営業利益

<国内>

巣ごもり需要の拡大により、
総菜加工業界・豆腐業界・水産加工業界
などにおける量販店向けやテイクアウト
向けの食品加工機械の販売が好調に推移

➔ 増収増益

<海外>

新型コロナウイルス感染症の影響により
営業活動が制限され、機械の据え付けが
遅延

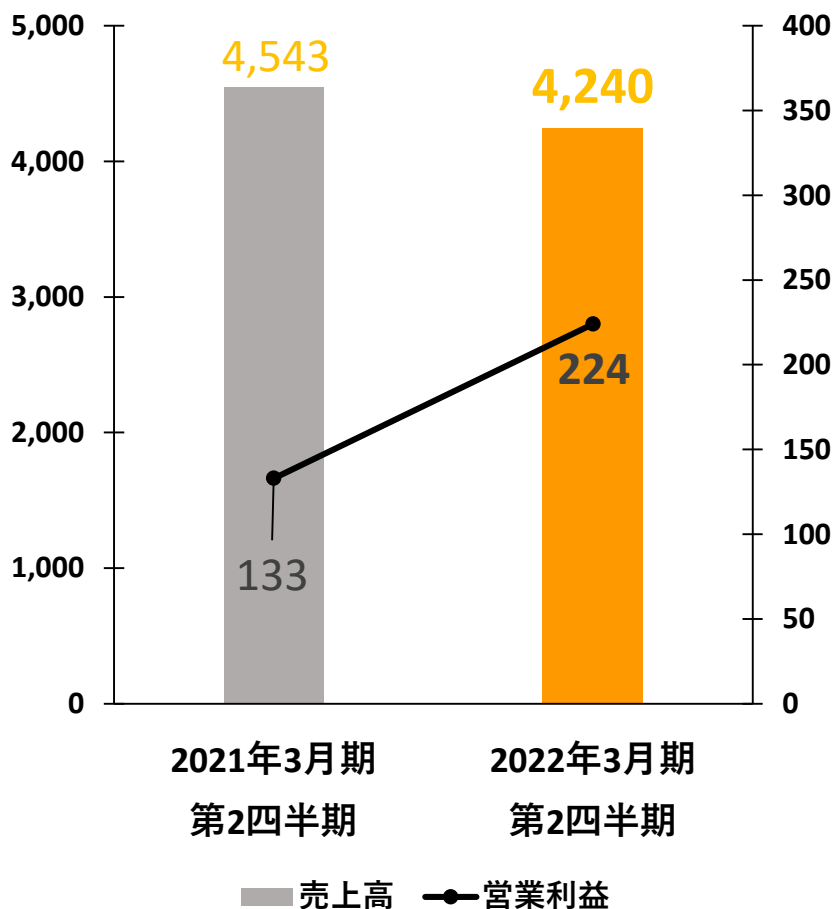
➔ 減収減益

(2022年3月期第2四半期)

減収(▲ 302)増益(+91)

最近2年間の実績推移

(単位：百万円)



<化成品部門>

- ・主力の住宅用部材シートや印刷用フィルムなどの販売においてコロナ禍におけるライフスタイル・ワークスタイルの変化により、リフォームや郊外での戸建ての需要が増加
- ・食品用包装資材の販売も引き続き好調に推移

<農畜資材部門>

肥料・資材の販売が堅調に推移

➔減収増益

※収益認識に関する会計基準の適用

原反を加工販売する当事業が大きく影響

➔減収

バイオティックス事業

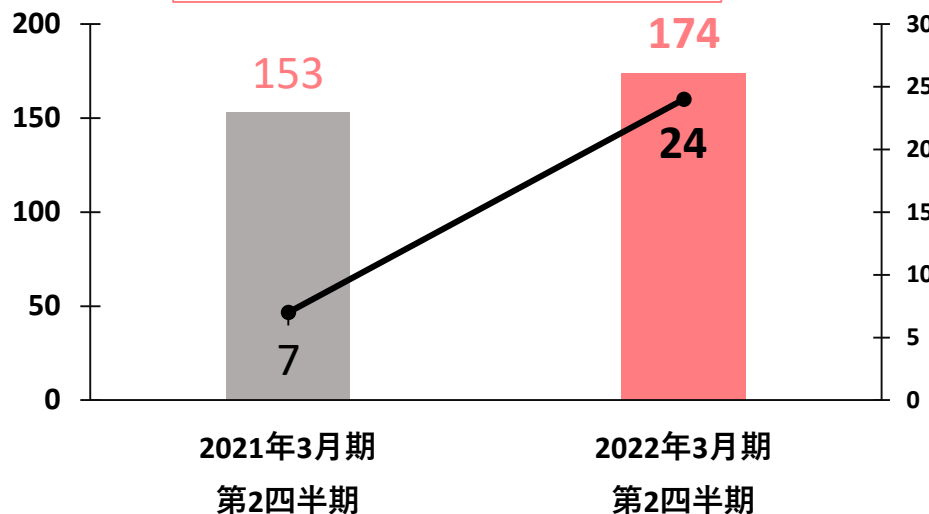
物流事業

(2022年3月期第2四半期)

増収(+21) 増益(+16)

最近2年間の実績推移

(単位：百万円)



■ 売上高 ● 営業利益

<バイオティックス事業>

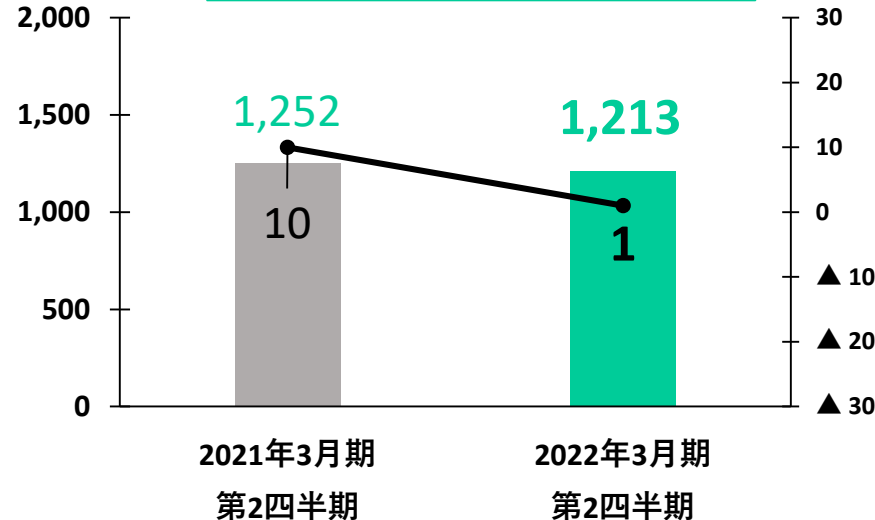
- ・ 大手健康食品メーカー向けに「アグリマックス」や「イムバランス」の素材販売の拡販
 - ・ 薬局向けOEM商品販売などが順調推移
- ➔ 増収増益

(2022年3月期第2四半期)

減収(▲ 38) 減益(▲ 8)

最近2年間の実績推移

(単位：百万円)



■ 売上高 ● 営業利益

<物流事業>

- ・ 断続的な緊急事態宣言などにより、酒類・菓子の出荷が落ち込んだことによる配送業務の減少
 - ・ 燃料高騰による車両の経費負担増
- ➔ 減収減益

今後の見通し・業績予想修正

今後の見通し

ワクチン接種の普及により感染者数が減少し、経済活動への制限は徐々に緩和されることが期待されるものの、感染の再燃など先行きの不透明感は拭えず、また、ライフスタイルの変化にともなうニーズの多様化にも柔軟な対応が求められるなど、厳しい状況が続く見通し。

業績予想修正の理由

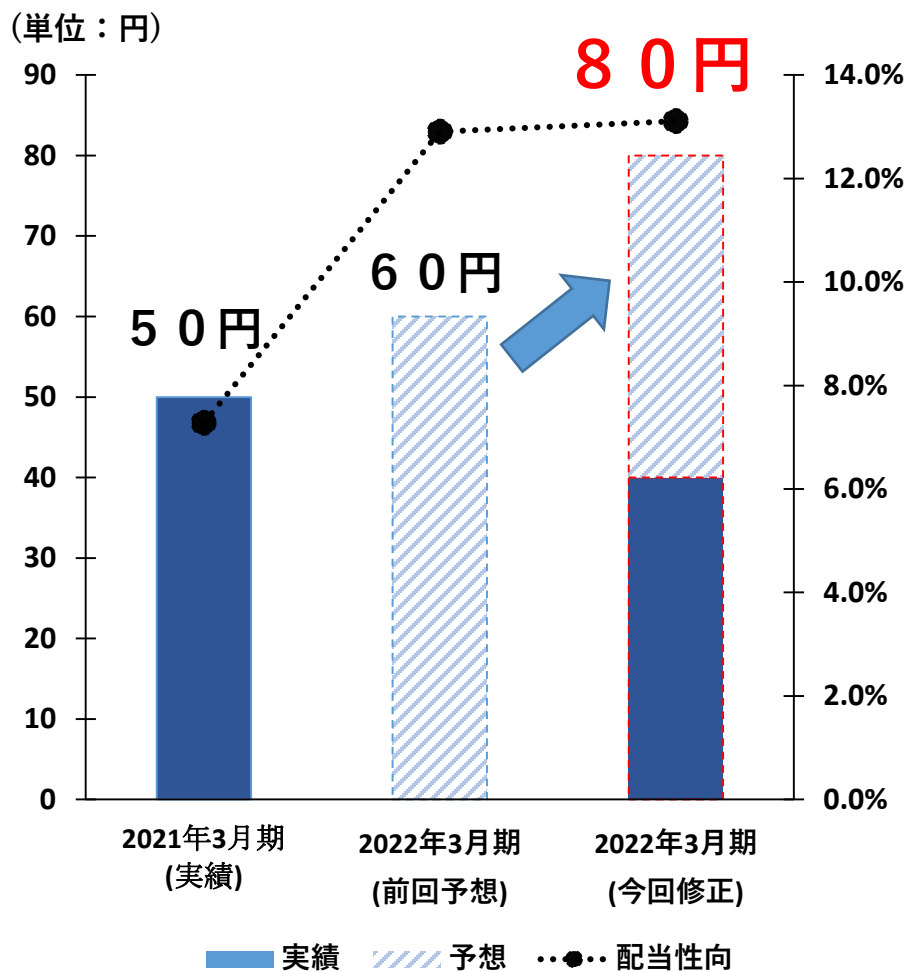
原料相場の高騰や半導体の需給ひっ迫など先行き不透明な状況にありますが、巣ごもり需要の拡大などを背景にして食品事業や機械事業が堅調に推移していることなどにより、令和3年5月14日に公表した通期連結業績予想を令和3年11月5日に上方修正。

(単位：百万円)

	2022年3月期 期初計画	2022年3月期 修正計画	対期初計画 比増減	対期初計画 増減率	2021年3月期
売上高	110,000	120,000	+10,000	+9.1%	113,317
営業利益	2,000	2,800	+800	+40.0%	2,177
経常利益	2,300	3,000	+700	+30.4%	2,362
親会社株主に帰属 する当期純利益	1,600	2,100	+500	+31.3%	1,491

配当について

- 株主への安定的な配当の維持を基本としながら、企業体質の一層の強化および将来の事業展開に備えるため、内部留保の充実を勘案し配分を決定
- 2022年3月期の年間配当予想は前回予想60円より20円増配の、1株当たり80円を予定



(単位：円)

	中間期	期末	合計
2022年3月期 (今回修正)	40	40	80
2022年3月期 (前回予想)	30	30	60
2021年3月期 (実績)	0	50	50

資料取扱いのご注意

本資料に記載されております業績見通し等の将来に関する記載は、現時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。

また、本資料の著作権を含む一切の権利はニチモウ株式会社に帰属します。